

南海トラフ地震、首都直下地震、日本海溝地震など、耐震設計・制振ダンパーでも守れない地震が来る？

今後予想される南海トラフ地震、首都直下地震、日本海溝地震は、熊本地震、能登半島地震同様、耐震強度を数倍超える2段地震。

耐震設計、品確法の耐震等級3(標準の1.5倍)では間に合わない可能性が大です。

大量倒壊の熊本地震、能登半島地震から「耐震壁・金物工法の限界」が見えてきます。

熊本地震では建物内で加速度が2～3倍に増幅し(筑波大学、境教授地震動分析)、能登半島地震では7階建てビル倒壊で明らかになった、軟弱地盤内で加速度が標準の2.5倍に増幅し(9月1日NHK特集)、大量の倒壊の原因が見えてきました。

木造建物が受ける加速度は耐震基準の10倍以上もありうるわけで、壁補強、金物補強の限界を超え、摩擦抵抗やバネ応力でエネルギーを消耗させ、慣性力で力を逃がす(達磨落としの原理)「ねこ免震の技術」が必要です。

